



2022年 2月24日

石屋製菓株式会社

## 熱帯植物の寒冷地栽培に成功 「北海道バニラ」の栽培工程を確立 ～量産による実用化を目指す～

石屋製菓株式会社(本社:札幌市西区 代表取締役社長:石水 創)は、2017年10月より試験運用して  
おりました「北海道バニラ」の栽培における一連の工程を確立したことをお知らせします。

弊社は「白い恋人」をはじめ、商品の原材料はできるだけ北海道産の素材を使用しておりますが、洋菓子に  
欠かせないバニラは輸入品に頼らざるを得ません。また、試験栽培開始当時の輸入バニラは主産地マダガス  
カルの天候不順による生産量減少や中国での消費拡大などにより価格が高騰、過去5年で約7倍となってお  
り、寒冷地である北海道での栽培ノウハウが確立できないかを模索しておりました。

当社は、2017年10月より農業生産法人アド・ワン・ファームと協力して丘珠農場(札幌市東区)にてバニラの  
試験栽培に着手しました。翌2018年4月に「北海道150年ファーム」\*を設立し本格的な活動を開始しました。

2018年から2019年にかけて試行錯誤を続けた結果、2020年1月に最初の花芽を確認し、同年2月に  
試験栽培開始後初めて開花させることに成功しました。その後、同年4月に人工受粉を開始し約8割の花が  
バニラビーンズとして生育しました。

2021年4月に最初の収穫を行い、香料会社にてキュアリング(独特な香りを出すための加工工程)試験の  
開始まで漕ぎ着け、商品化までの一連の工程を確立することができました。

当初、2020年の量産体制・国内外の販売を目指しておりましたが、バニラの寒冷地栽培は世界的にも実  
例がないためノウハウが確立されておらず、また、1年に1回しか開花しない植物でもあることから生育データの  
収集や仮説検証・研究に多くの時間がかかり、5年目にして実用化の見通しがつきました。

2021年についても開花および受粉に成功しているため、今後は徐々に収穫量を拡大していく計画で、  
来年度以降は量産による実用化を目指しております。

当社は「しあわせをつくるお菓子」の企業理念のもと、“100年先も、北海道に愛される会社へ”という  
長期ビジョンの達成に向け、持続可能な事業活動を通じて北海道に貢献してまいります。

### 【本件に関するお問い合わせ先】

石屋製菓株式会社 広報CSR課 担当：亀村、加藤

TEL:090-2693-1485、E-mail:t.kamemura@ishiya.co.jp、c.kato@ishiya.co.jp



\*北海道150年ファームについて

「北海道の農業価値を高める」ことを目的に、(株)アド・ワン・ファーム、北海道総合商事(株)、石屋製菓(株)が共同出資で北海道命名150年の節目にあたる2018年4月に設立。

寒冷地では初の試み(自社調べ)として、世界的に供給不足となっているバニラ栽培に着手。

バニラは赤道付近の高温多湿な土地で栽培されていますが、将来、極寒の北海道が“バニラの大産地”になることを目指しています。

- ・会社名：株式会社北海道150年ファーム
- ・代表者：宮本 有也(アド・ワン・ファーム取締役社長)
- ・WEB： <https://hokkaido150nen-f.jp/>



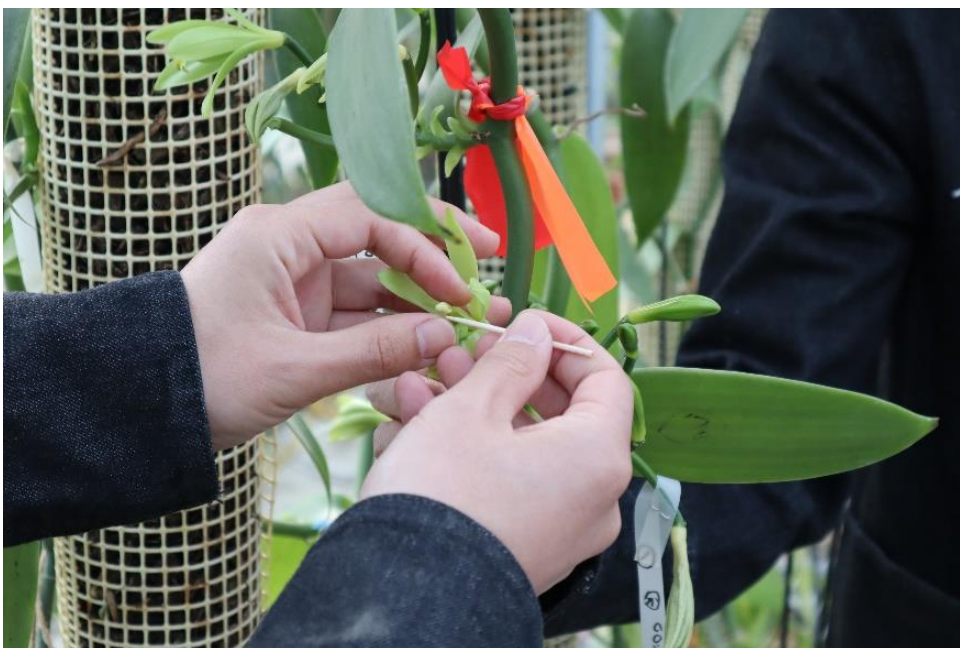
(資料画像)



最初に開花したバニラ(2020年2月9日撮影)



収穫されたバニラビーンズ(2021年11月18日撮影)



受粉作業(2020年4月17日撮影)